

男女共同参画に関する市民アンケート調査

－ 報告書 －

平成 22 年 11 月

広島県 安芸高田市

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	2
	1. 性別	2
	2. 年齢	2
	3. 職業	3
	4. 配偶者の状況	4
	5. 同居家族	6
III	調査結果	7
	【1】家庭生活における男女の地位について	7
	1. 男女共同参画に関する言葉の認知	7
	2. 男女の地位の平等意識	8
	3. 家庭における役割分担	9
	4. 社会での男女平等に必要と思うこと	10
	【2】女性が働くことについて	12
	1. 女性が仕事をするについて	12
	2. 職場における男女の平等意識	14
	3. 男女の仕事と家庭の両立に必要と思うこと	15
	4. 日常生活における優先度	17
	【3】子育てや介護について	19
	1. 子育てについての意識	19
	2. 介助が必要な家族への望ましいと思う介護	21
	【4】女性の人権について	22
	1. 暴力にあたると思われる行為	22
	2. 望ましいと思うDV等に対する取組・施策	25
	【5】男女共同参画社会の形成について	27
	1. 男女がともに家事や地域活動するために必要と思うこと	27
	2. 男女共同参画推進のために必要と思うこと	29

I 調査の概要

【調査目的】

平成 17 年度に策定した「安芸高田市男女共同参画プラン」の見直しに向けて、市民の男女共同参画に関する取組の実態や問題点、意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施した。

【調査対象】

満 20 歳以上の市民

【抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

平成 22 年 9 月 7 日（火）～9 月 24 日（金）

【回収結果】

配布数----- 1,000 件

有効回収数---- 396 件

有効回収率---- 39.6%

地区別回収状況

(上段：回収件数、下段：構成比%)

吉田町	八千代町	美土里町	高宮町	甲田町	向原町	無回答	合計
124	53	53	47	59	57	3	396
31.3	13.4	13.4	11.9	14.9	14.4	0.8	100.0

(問 1. 居住地区)

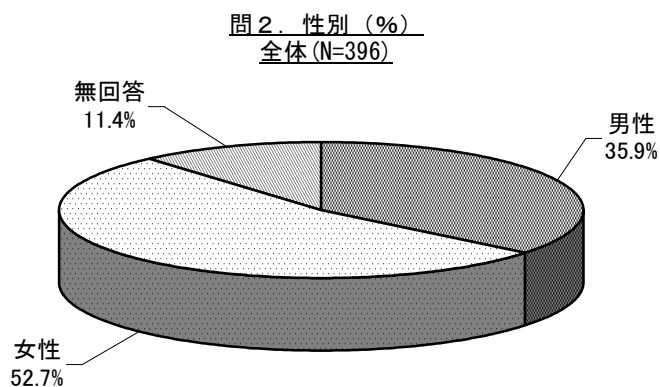
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも 100% にならない場合がある。
- (2) 2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100% を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す N は、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で標記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1% など）は図中表記から割愛している場合がある。
- (6) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1. 性別

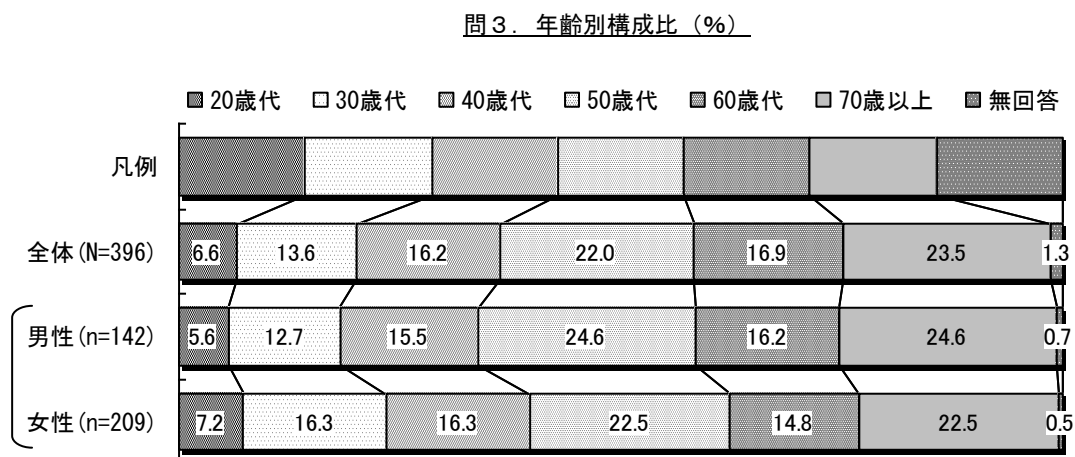
性別構成比は、男性 35.9%、女性 52.7%と女性が過半数を占める。



2. 年齢

年齢別構成は、「70歳以上」が23.5%で最も多く、次いで「50歳代」(22.0%)、「60歳代」(16.9%)の順となっている。

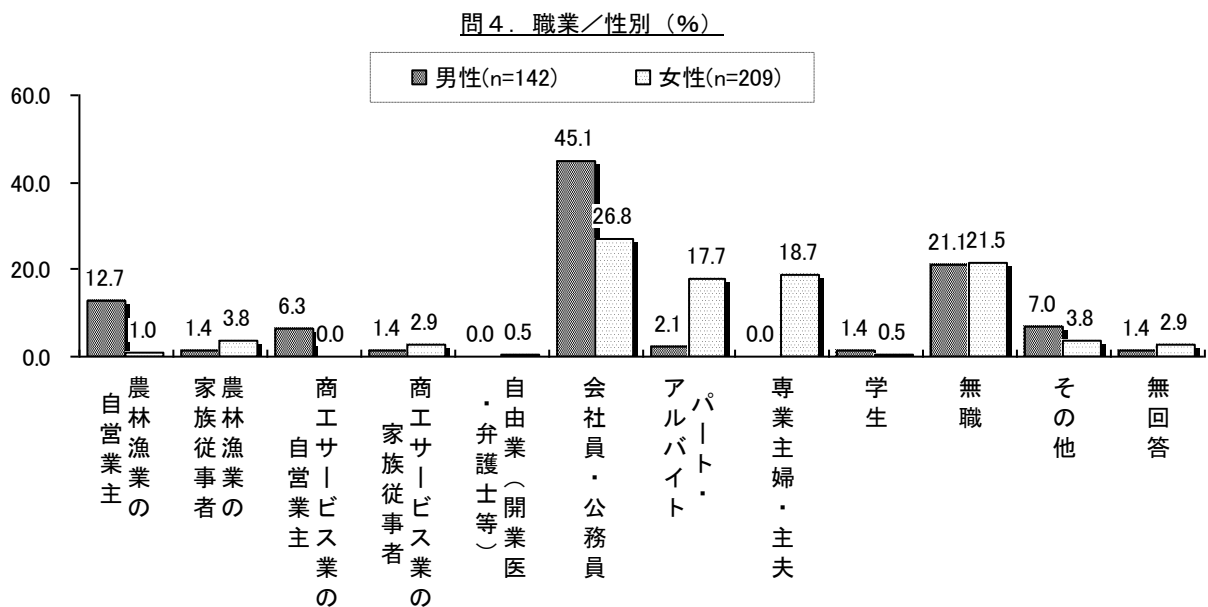
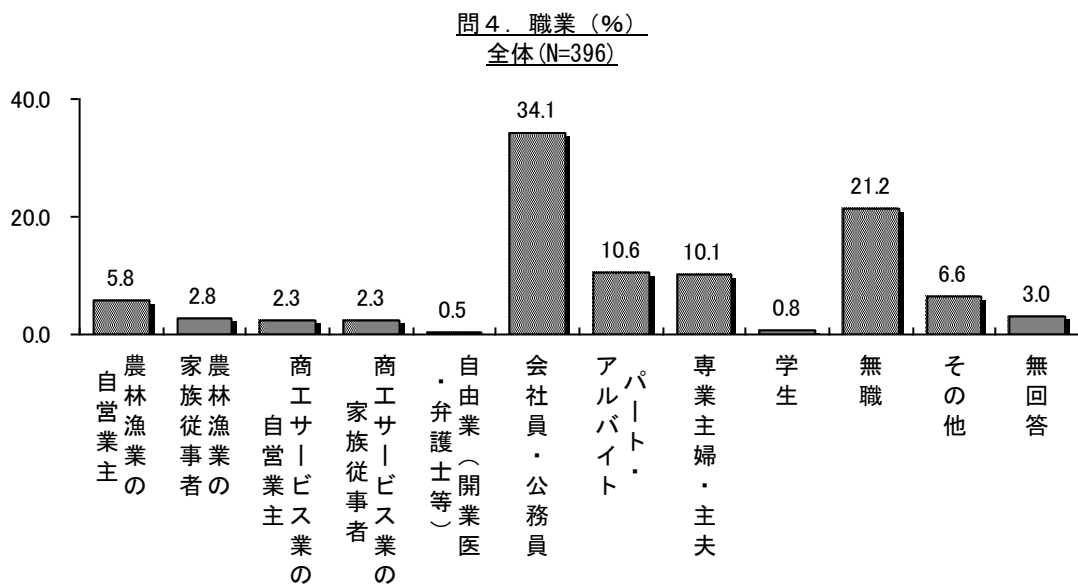
性別では、女性に比べて男性で50歳以上の占める割合が多くなっている。



3. 職業

職業は、「会社員・公務員」が34.1%と最も多く、次いで「無職」(21.2%)、「パート・アルバイト」(10.6%)、「専業主婦・主夫」(10.1%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「会社員・公務員」、女性は「パート・アルバイト」や「専業主婦・主夫」がそれぞれ多い。

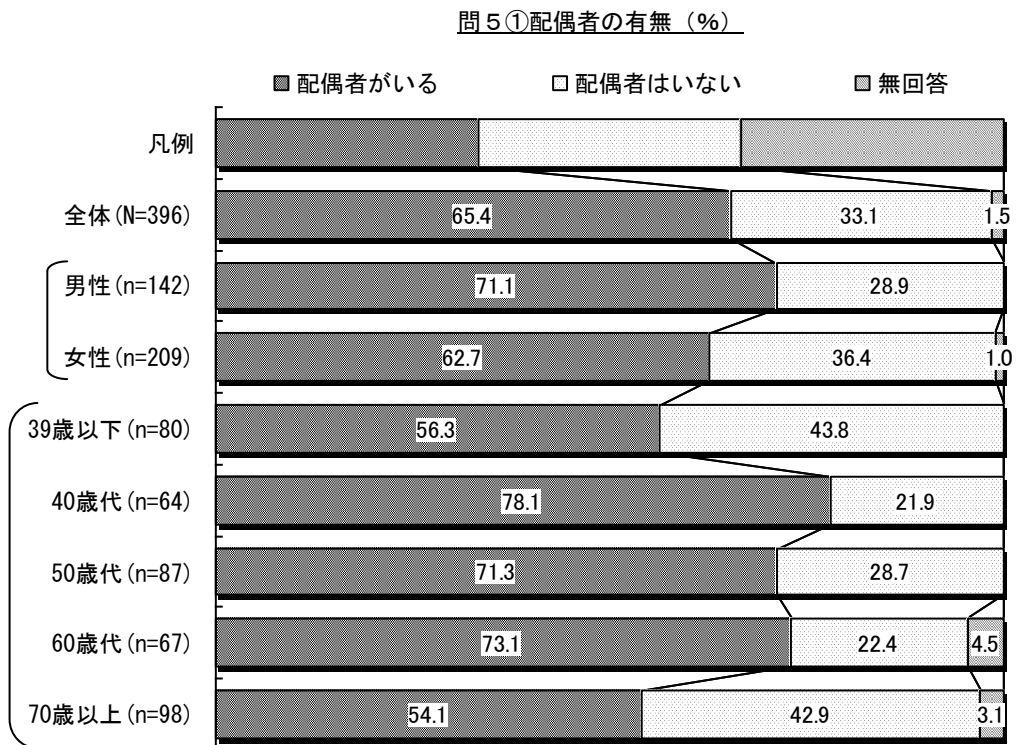


4. 配偶者の状況

(1) 配偶者の有無

配偶者の有無は、「配偶者がいる」が65.4%、「いない」が33.1%となっている。

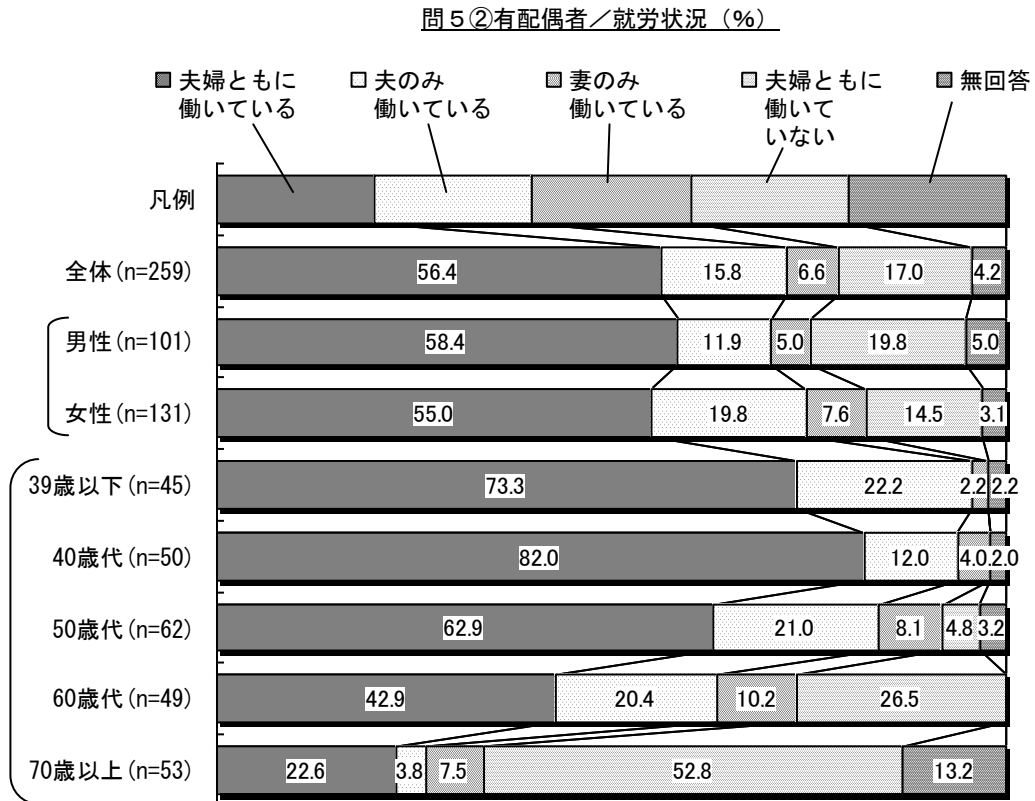
性別では、女性に比べ男性で配偶者の「いる」割合がやや高い。年齢別では、40～60歳代で「配偶者がいる」がそれぞれ7割以上となっている。



(2) 就労状況

有配偶者における共働きの状況は、「夫婦ともに働いている（共働き）」が 56.4%と過半数を占めている。次いで「夫婦ともに働いていない」（17.0%）、「夫のみ働いている」（15.8%）の順となっている。

性別では大きな差は目立たないが、年齢別では若い年齢層ほど共働きが多く、年齢が上がるにつれ「夫婦ともに働いていない」が多い傾向にある。

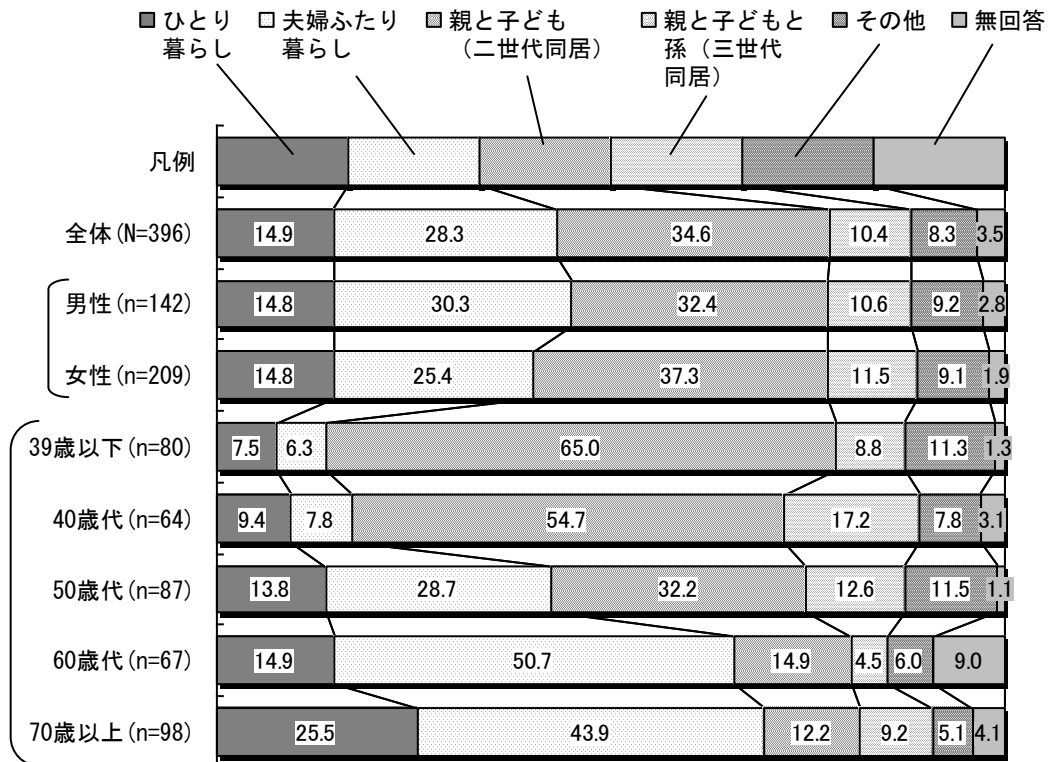


5. 同居家族

同居家族は、「親と子ども（二世世代同居）」が 34.6%と最も多く、次いで「夫婦ふたり暮らし」（28.3%）、「ひとり暮らし」（14.9%）の順となっている。

性別では大きな差は目立たないが、年齢別では若い年齢層ほど「親と子ども（二世世代同居）」、年齢が上がるにつれ「ひとり暮らし」や「夫婦ふたり暮らし」が多くなる傾向にある。

問6. 同居家族 (%)



Ⅲ 調査結果

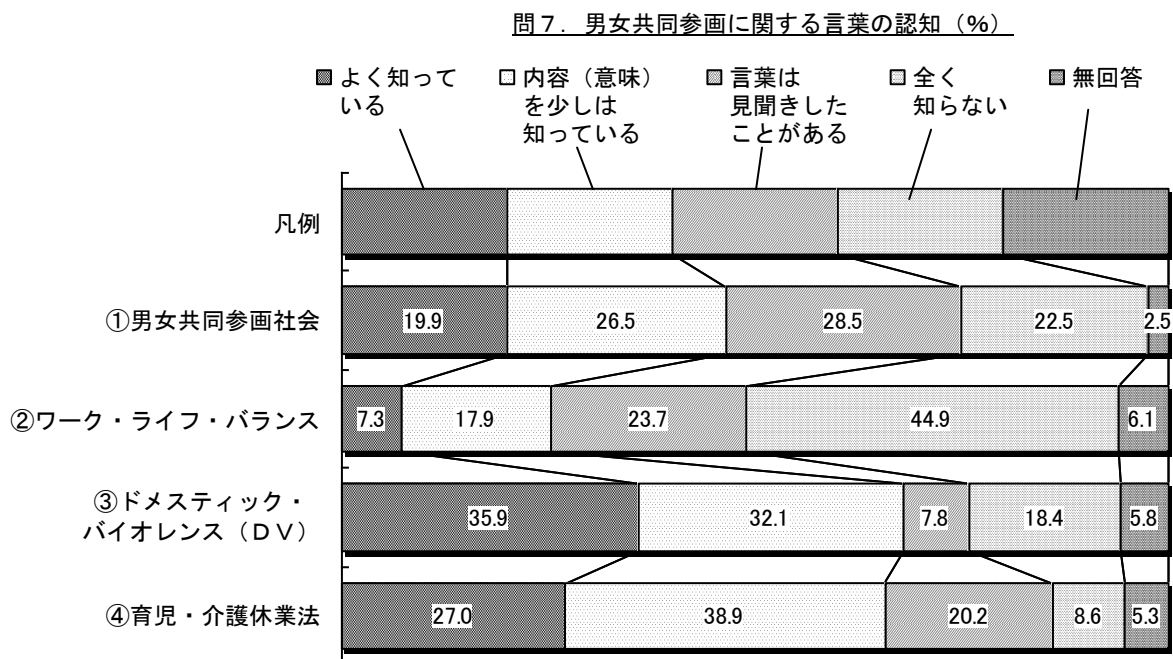
【1】家庭生活における男女の地位について

1. 男女共同参画に関する言葉の認知

問7. あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉をご存じですか。(〇印1つずつ)

男女共同参画に関する言葉の認知について、「よく知っている」割合の多い言葉は、「③ドメスティック・バイオレンス(DV)」が35.9%と最も多く、次いで「④育児・介護休業法」(27.0%)、「①男女共同参画社会」(19.9%)の順となっており、「②ワーク・ライフ・バランス」は7.3%で最も低くなっている。

性別では大きな差は目立たないが、年齢別でみると「①男女共同参画社会」では男性の60歳以上で「よく知っている」が多く、「③ドメスティック・バイオレンス(DV)」については男性の39歳以下及び40歳代、女性の70歳以上を除く幅広い年齢層に認知されている。「②ワーク・ライフ・バランス」については男性の60歳以上で「よく知っている」が比較的多い。



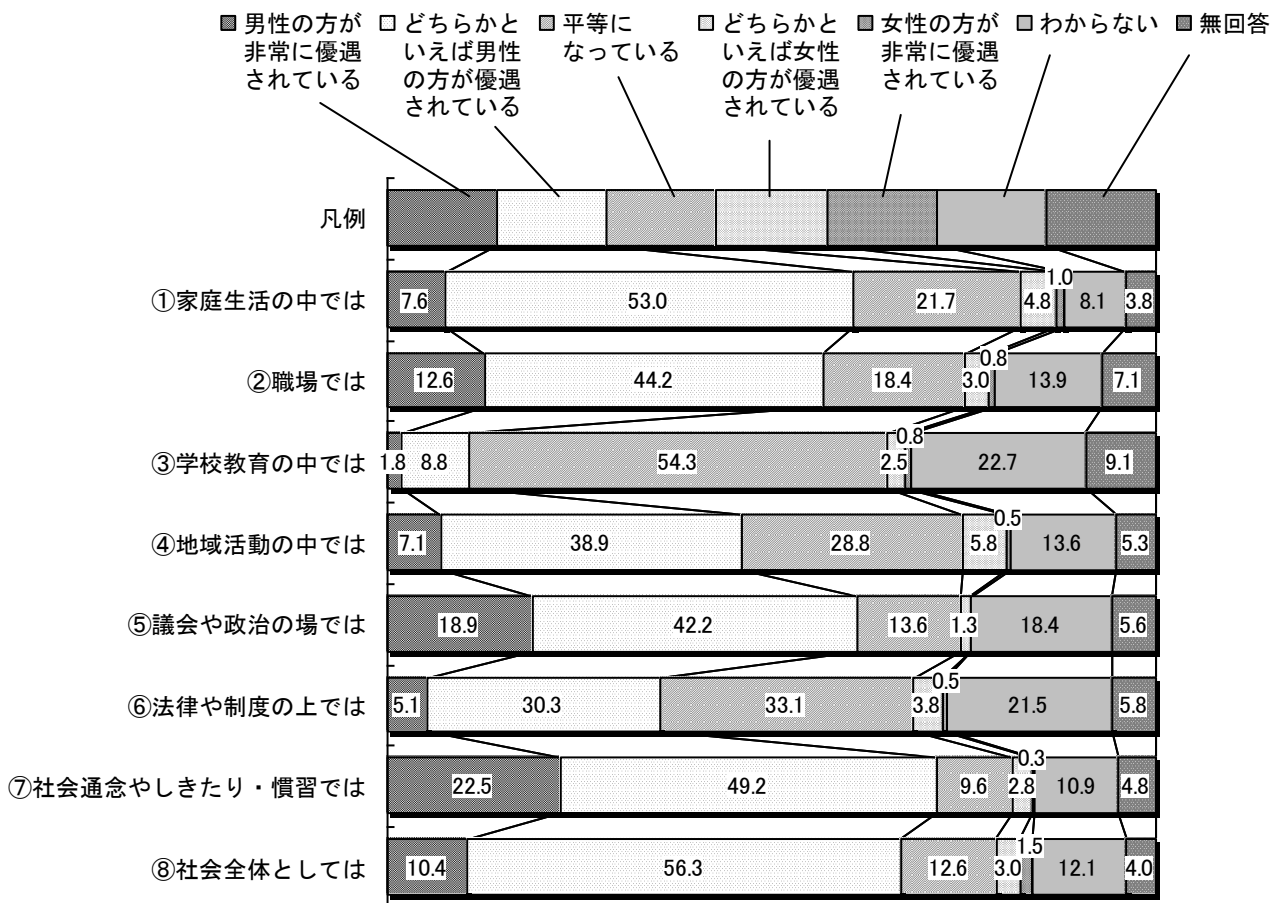
2. 男女の地位の平等意識

問8. 現在の日本の社会において、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、あなたのお気持ちに最も近いものを、それぞれお答えください。(〇印1つずつ)

男女の地位の平等意識について、「平等になっている」への回答をみると、「③学校教育の中では」が54.3%と過半数を占め最も多く、次いで「⑥法律や制度の上では」(33.1%)、「④地域活動の中では」(28.8%)と続く。しかし、全体的に男性優遇意識が女性優遇意識を上回っている項目が目立ち、特に「⑦社会通念やしきたり・慣習では」「⑤議会や政治の場では」といった項目では「男性の方が非常に優遇されている」が多くなっている。

各項目を属性別にみると、全般的に女性の方が「男性優遇」の意識が強く、特に女性50歳代の「男性優遇」意識が強い傾向がみられる。一方、「③学校教育の中では」は各属性ともに「平等」意識が強い。

問8. 男女の地位の平等意識 (%)
全体(N=396)

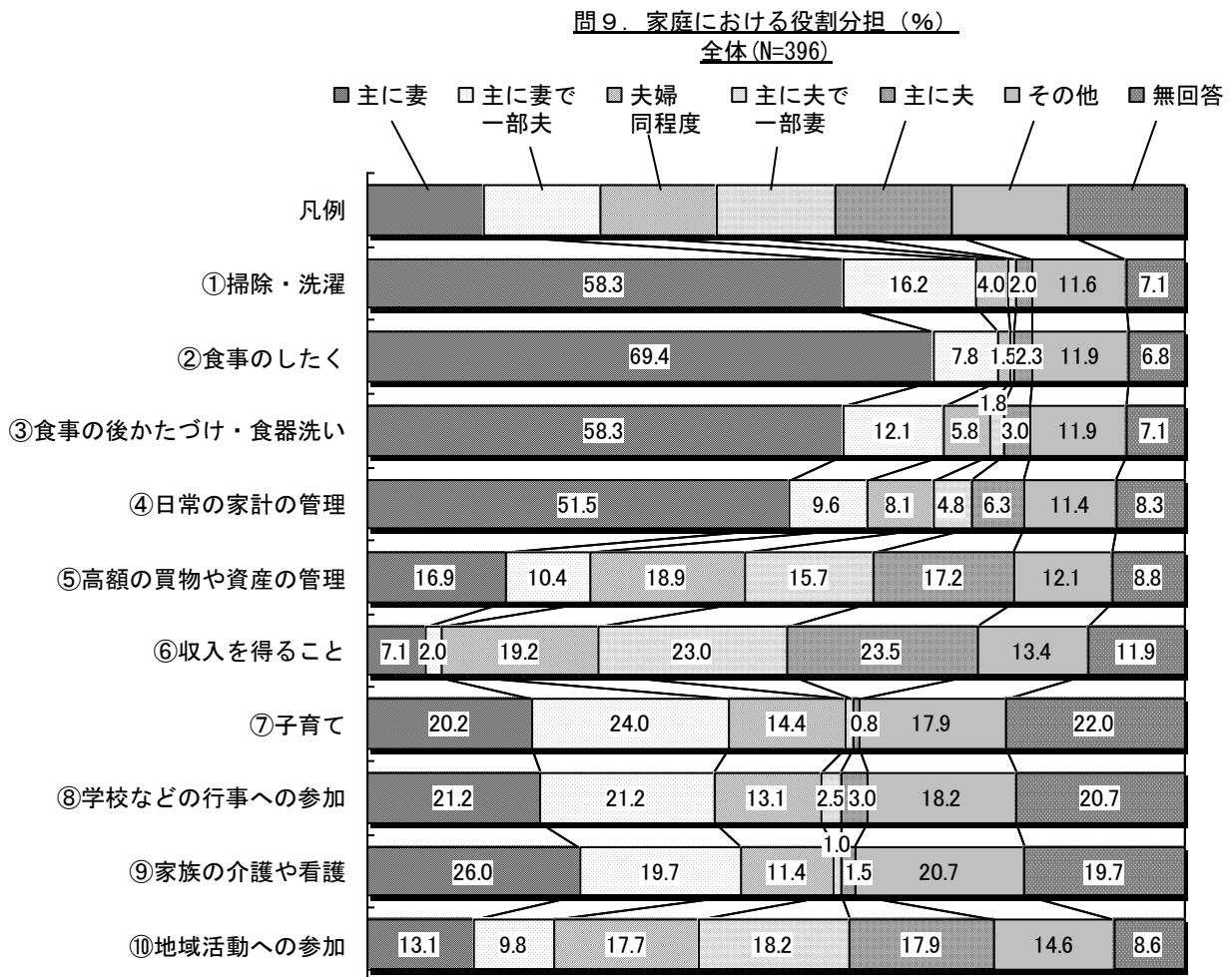


3. 家庭における役割分担

問9. 家庭において収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、実際にあなたの家庭では誰が担当していますか。①～⑩のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

家庭における役割分担について、「主に妻」の割合をみると、「②食事のしたく」が69.4%と最も多く、次いで「①掃除・洗濯」「③食事の後かたづけ・食器洗い」(各58.3%)、「④日常の家計の管理」(51.5%)の順となっている。一方、「主に夫」の割合をみると、「⑥収入を得ること」が23.5%で最も多く、以下「⑩地域活動への参加」(17.9%)、「⑤高額の商品や資産の管理」(17.2%)などの順となっている。「夫婦同程度」については「⑥収入を得ること」(19.2%)、「⑤高額の商品や資産の管理」(18.9%)などが多くみられる。

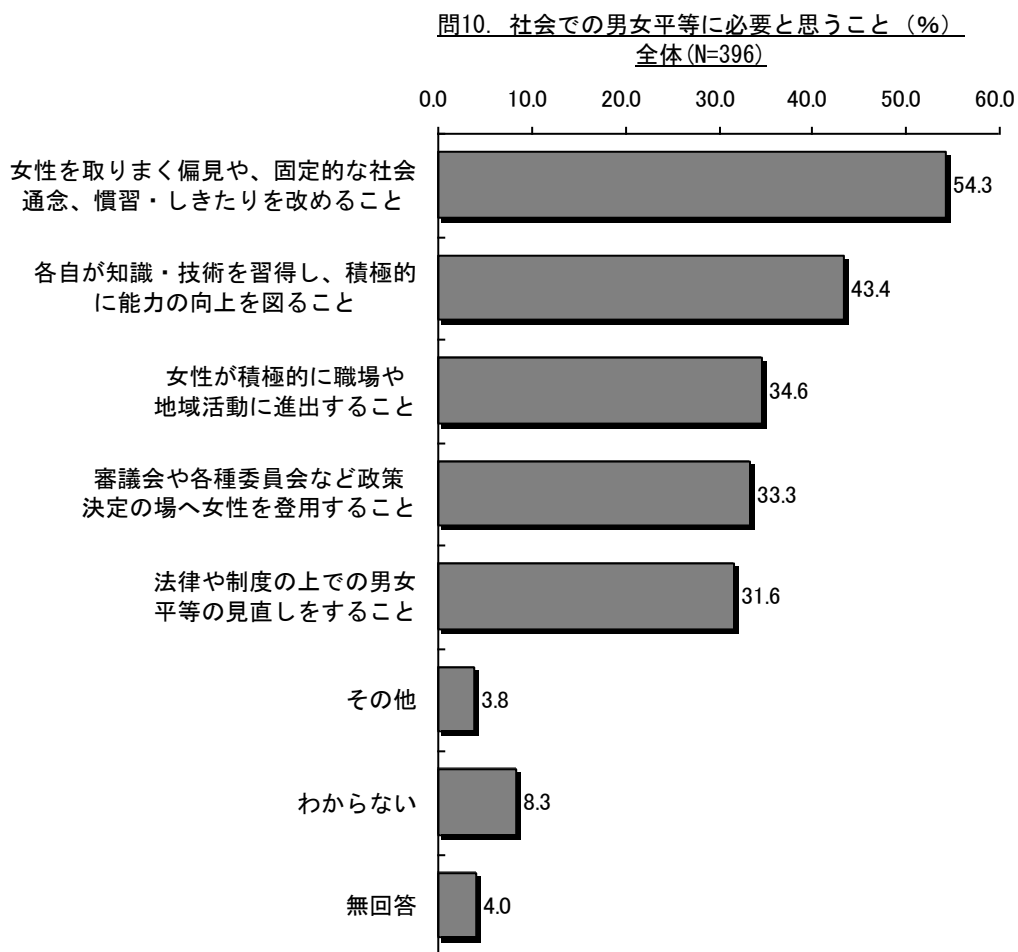
属性別では、各項目ともに全体的に女性において、「主に妻」が実際に担っている役割であると回答する傾向が目立っており、特に「①掃除・洗濯」「②食事のしたく」や「③食事の後かたづけ・食器洗い」では顕著である。また、「⑩地域活動への参加」については、男性は「主に夫」意識が強いが、女性は「同程度」に意識が近いなど、男女差が目立つ。



4. 社会での男女平等に必要と思うこと

問 10. 男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、今後どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

社会での男女平等に必要と思うことについては、「女性を取りまく偏見や、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 54.3%と最も多く、次いで「各自が知識・技術を習得し、積極的に能力の向上を図ること」(43.4%)、「女性が積極的に職場や地域活動に進出すること」(34.6%)、「審議会や各種委員会など政策決定の場へ女性を登用すること」(33.3%)、「法律や制度の上での男女平等の見直しをすること」(31.6%)の順であるが、第3位から5位までは大きな差は目立たない。



性別では、男性は「審議会や各種委員会など政策決定の場へ女性を登用すること」で女性を大きく上回り、女性は「各自が知識・技術を習得し、積極的に能力の向上を図ること」が多い点で差が目立つ。また、男女ともに60歳代で「各自が知識・技術を習得し、積極的に能力の向上を図ること」「女性を取りまく偏見や、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、70歳以上で「女性が積極的に職場や地域活動に進出すること」が、他の年齢層に比べ多くなっている。

問10. 社会での男女平等に必要と思うこと(%)

	固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	各自が知識・技術を習得し、積極的に能力の向上を図ること	女性が積極的に職場や地域活動に進出すること	審議会や各種委員会など政策決定の場へ女性を登用すること	法律や制度の上での男女平等の見直しをすること	その他	わからない
全体(N=396)	54.3	43.4	34.6	33.3	31.6	3.8	8.3
男性(n=142)	53.5	38.7	41.5	38.7	27.5	3.5	7.0
女性(n=209)	54.5	48.8	29.2	28.7	33.5	3.3	8.6
男性39歳以下(n=26)	53.8	30.8	23.1	42.3	38.5	3.8	0.0
男性40歳代(n=22)	50.0	22.7	40.9	45.5	22.7	9.1	18.2
男性50歳代(n=35)	54.3	37.1	45.7	34.3	22.9	0.0	5.7
男性60歳代(n=23)	60.9	52.2	39.1	43.5	30.4	4.3	4.3
男性70歳以上(n=35)	48.6	48.6	54.3	34.3	22.9	2.9	8.6
女性39歳以下(n=49)	49.0	46.9	16.3	26.5	36.7	6.1	10.2
女性40歳代(n=34)	58.8	41.2	20.6	29.4	32.4	8.8	5.9
女性50歳代(n=47)	59.6	55.3	36.2	31.9	36.2	2.1	10.6
女性60歳代(n=31)	64.5	64.5	32.3	38.7	32.3	0.0	3.2
女性70歳以上(n=47)	44.7	38.3	40.4	21.3	29.8	0.0	10.6

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別、年齢別など)において最も高い割合を示しています。

(例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目については網掛けは除外しています。

また「無回答」は表記から除外しています。

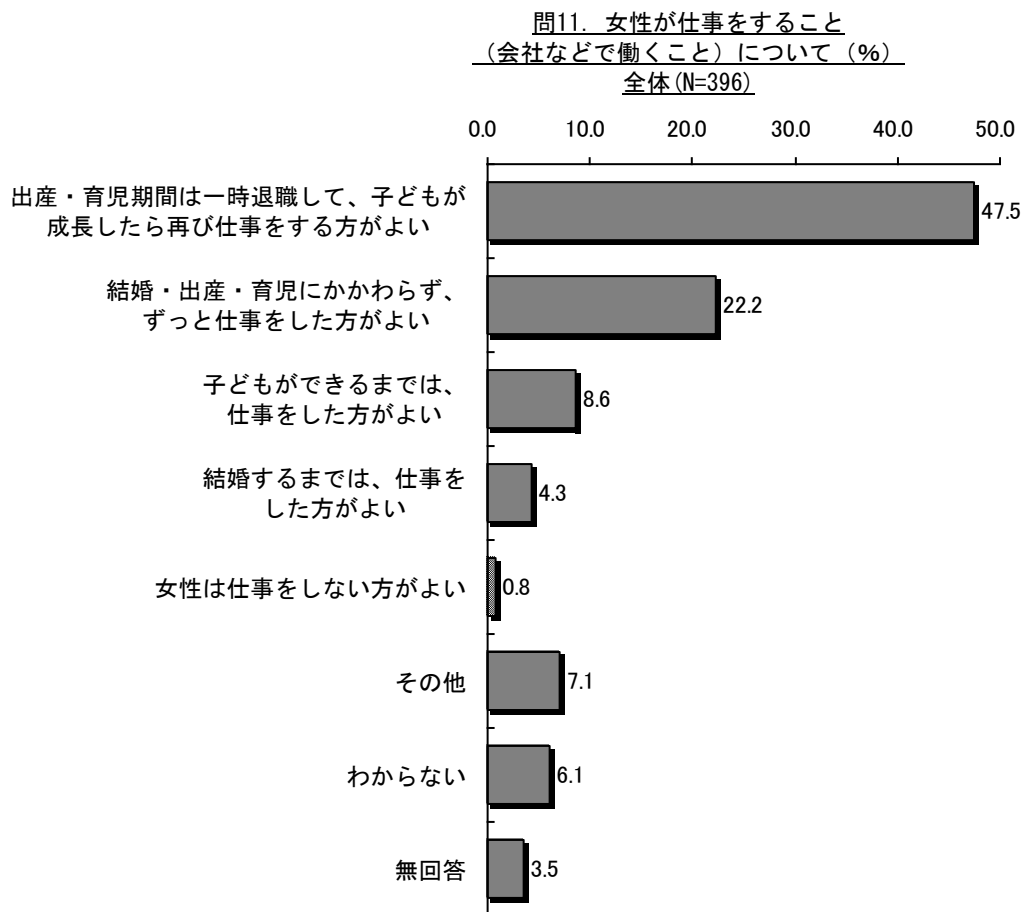
本報告書においては、以下同様とします。

【2】女性が働くことについて

1. 女性が仕事をする事について

問 11. 女性が仕事をする事（会社などで働くこと）について、あなたはどのように思いますか。（○印1つ）

女性が仕事をする事についての意識をみると、「出産・育児期間は一時退職して、子どもが成長したら再び仕事をする方がよい」が47.5%と突出して最も多く、次いで「結婚・出産・育児にかかわらず、ずっと仕事をした方がよい」（22.2%）が続く。このほかの項目については、それぞれ回答は少ない。



性別では大きな差は目立たない。年齢別では、男性 39 歳以下、及び女性 60 歳代で「出産・育児期間は一時退職して、子どもが成長したら再び仕事をする方がよい」、また男女とも 70 歳以上で「結婚するまでは、仕事をした方がよい」が他の年齢層に比べやや多くなっている。

問11. 女性が仕事をする事(会社などで働くこと)について(%)

	再び出産・育児期間が長い	結婚・出産・育児をしながら	子どもができるまでは、仕事をし	結婚するまでは、仕事をし	女性は仕事をしない方がよ	その他	わからない
全体(N=396)	47.5	22.2	8.6	4.3	0.8	7.1	6.1
男性(n=142)	49.3	20.4	10.6	4.2	1.4	3.5	6.3
女性(n=209)	45.5	23.0	6.7	4.8	0.5	11.0	5.7
男性39歳以下(n=26)	53.8	23.1	11.5	0.0	0.0	7.7	3.8
男性40歳代(n=22)	40.9	18.2	0.0	4.5	4.5	9.1	13.6
男性50歳代(n=35)	51.4	28.6	8.6	0.0	0.0	0.0	8.6
男性60歳代(n=23)	47.8	17.4	17.4	4.3	0.0	0.0	4.3
男性70歳以上(n=35)	51.4	14.3	14.3	11.4	2.9	0.0	2.9
女性39歳以下(n=49)	30.6	28.6	8.2	4.1	0.0	24.5	4.1
女性40歳代(n=34)	47.1	29.4	2.9	0.0	0.0	11.8	5.9
女性50歳代(n=47)	51.1	27.7	0.0	2.1	0.0	10.6	8.5
女性60歳代(n=31)	58.1	16.1	6.5	6.5	0.0	6.5	6.5
女性70歳以上(n=47)	44.7	12.8	14.9	10.6	2.1	0.0	4.3

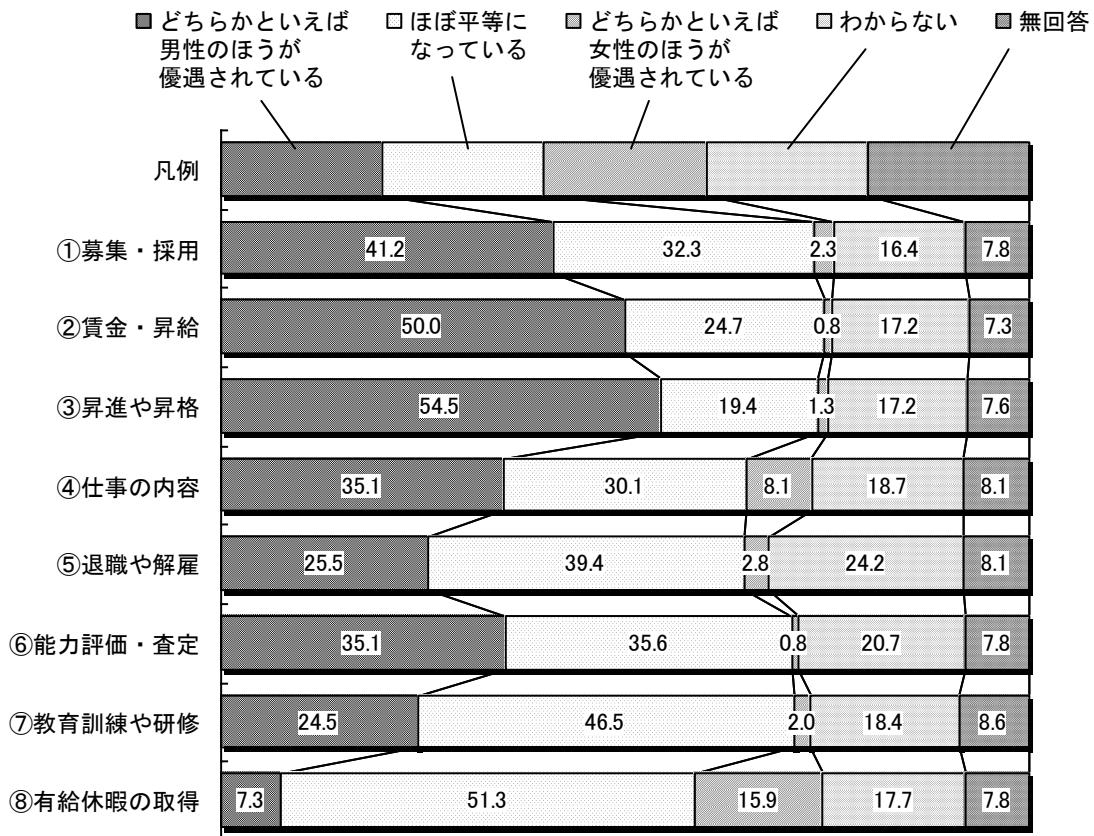
2. 職場における男女の平等意識

問 12. 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。(〇印1つずつ)

職場における男女の平等意識について、まず男性優遇意識（どちらかといえば男性のほうが優遇されている）をみると、「③昇進や昇格」が 54.5%と最も多く、次いで「②賃金・昇給」（50.0%）、「①募集・採用」（41.2%）の順となっている。一方、女性優遇意識は全体的に回答は少ないが、「⑧有給休暇の取得」で 15.9%みられる。「ほぼ平等になっている」への回答では「⑧有給休暇の取得」が 51.3%と最も多く、以下「⑦教育訓練や研修」（46.5%）、「⑤退職や解雇」（39.4%）などの順となっている。

性別では、全体的に女性が「男性優遇」と感じる項目が多く、年齢別では特に女性 60 歳代において「②賃金・昇給」「③昇進や昇格」「④仕事の内容」「⑤退職や解雇」などで他の年齢層を上回っている。

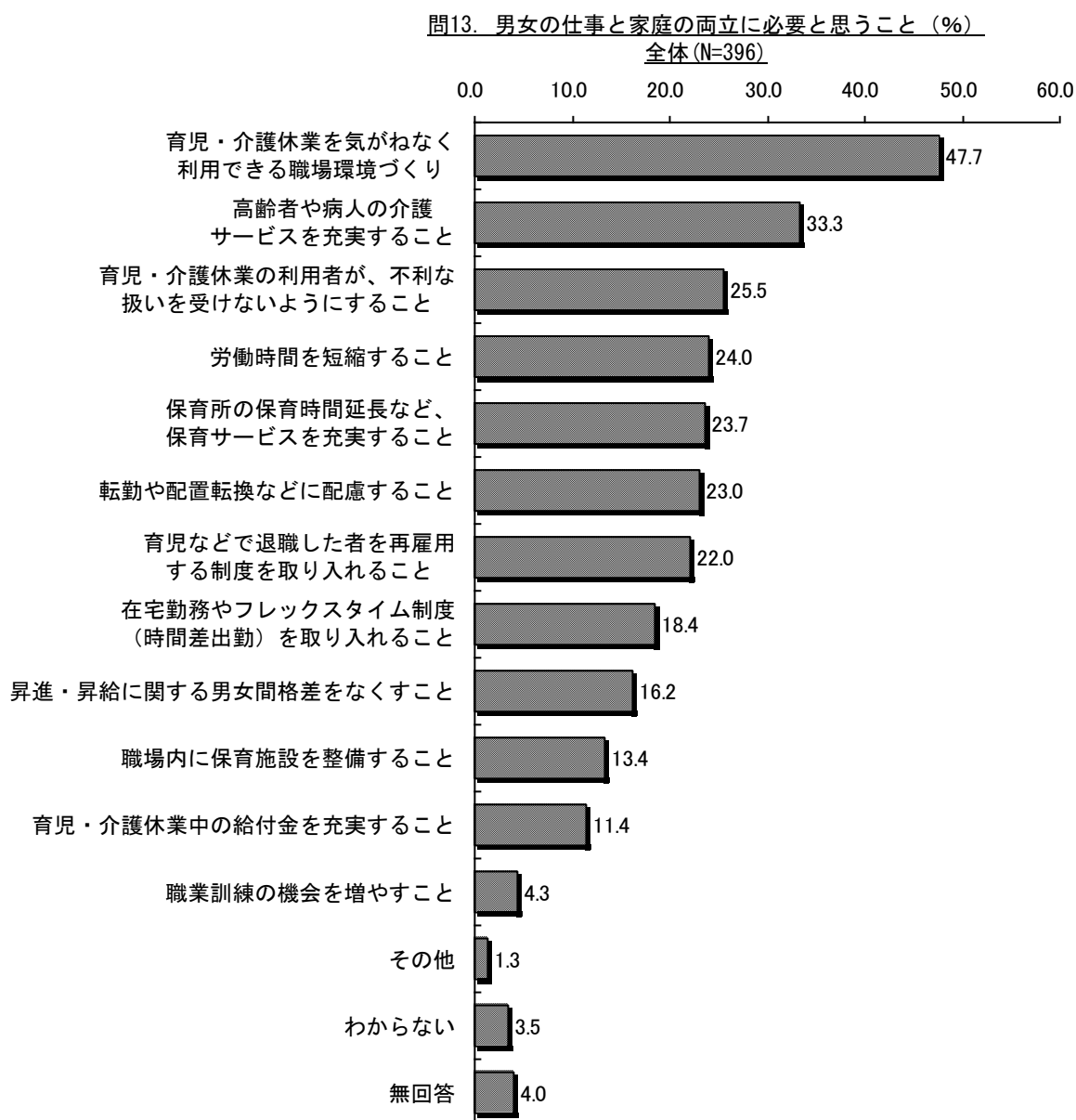
問12. 職場における男女の平等意識 (%)
全体 (N=396)



3. 男女の仕事と家庭の両立に必要なと思うこと

問 13. 男女がともに、仕事と家庭の両立をし続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

男女の仕事と家庭の両立に必要なと思うことについては、「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」が 47.7%と半数近くで最も多く、次いで「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」(33.3%)、「育児・介護休業の利用者が、不利な扱いを受けないようにすること」(25.5%)、「労働時間を短縮すること」(24.0%)、「保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること」(23.7%)、「転勤や配置転換などに配慮すること」(23.0%)の順となっている。



性別では大きな差は目立たないが、年齢別では男女ともに39歳以下で「育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり」「保育所の保育時間延長など、保育サービスを充実すること」、また、女性の70歳以上で「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」などが目立っている。

問13. 男女の仕事と家庭の両立に必要と思うこと(%)

	育児・介護休業を気軽に利用できる職場環境づくり	高齢者や病人の介護サービス	育児・介護休業の利用が不利な扱いを受けない	労働時間を短縮すること	保育所の保育サービスを充実すること	転勤や配置転換などに配慮すること	育児などで退職した者を再雇用する制度を取り入れること	在宅勤務やフレックスタイム（時間差出勤）を取り入れること
全体(N=396)	47.7	33.3	25.5	24.0	23.7	23.0	22.0	18.4
男性(n=142)	45.8	31.7	23.9	25.4	20.4	26.1	23.2	19.7
女性(n=209)	49.8	34.0	28.7	24.9	23.0	21.5	22.0	17.7
男性39歳以下(n=26)	61.5	11.5	19.2	50.0	34.6	19.2	23.1	19.2
男性40歳代(n=22)	45.5	36.4	36.4	13.6	22.7	36.4	9.1	22.7
男性50歳代(n=35)	40.0	40.0	28.6	22.9	14.3	17.1	22.9	17.1
男性60歳代(n=23)	30.4	26.1	21.7	13.0	21.7	39.1	34.8	26.1
男性70歳以上(n=35)	51.4	40.0	14.3	22.9	14.3	25.7	25.7	17.1
女性39歳以下(n=49)	65.3	18.4	30.6	28.6	38.8	18.4	10.2	10.2
女性40歳代(n=34)	41.2	23.5	23.5	17.6	23.5	32.4	35.3	35.3
女性50歳代(n=47)	61.7	38.3	19.1	36.2	27.7	17.0	21.3	23.4
女性60歳代(n=31)	48.4	35.5	38.7	29.0	16.1	35.5	19.4	16.1
女性70歳以上(n=47)	29.8	53.2	34.0	12.8	4.3	10.6	27.7	6.4

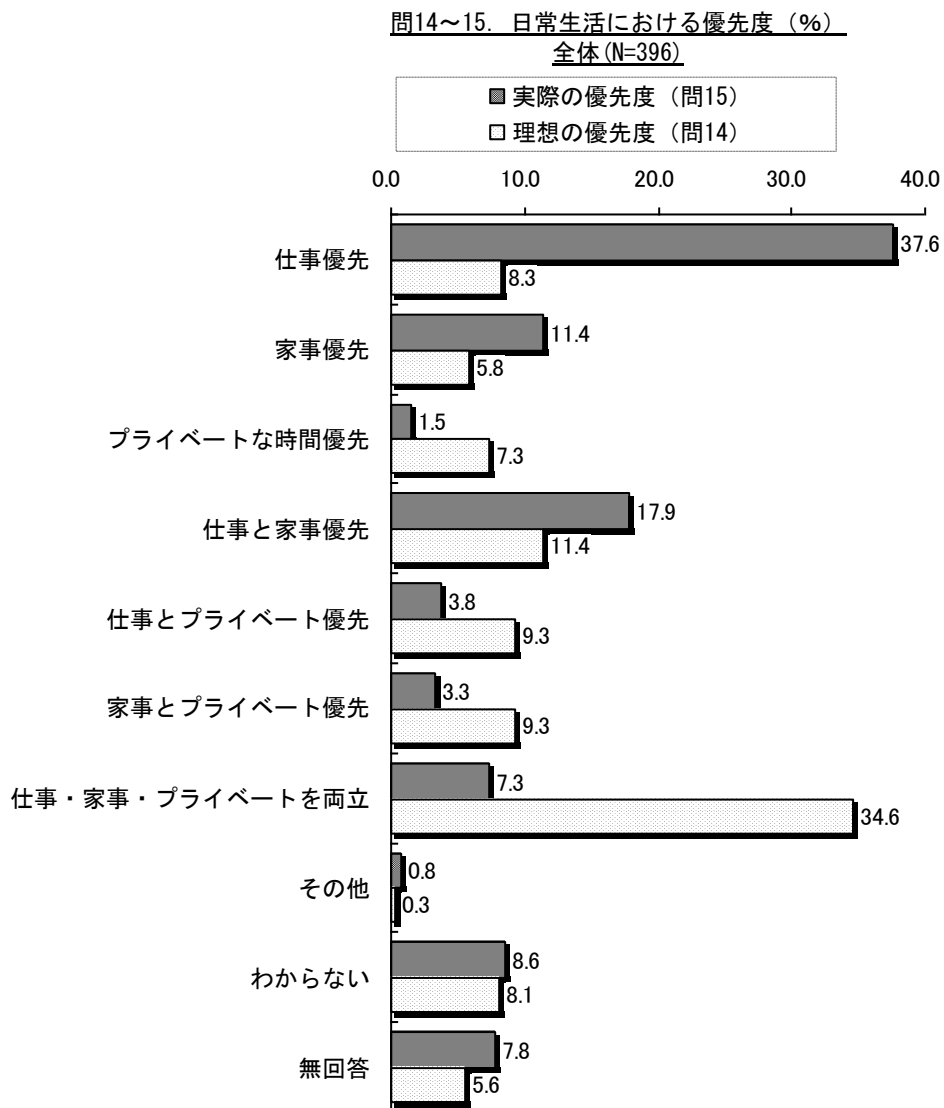
	昇進・昇給に関する男女間格差をなくすこと	職場内に保育施設を整備すること	育児・介護休業中の給付金を充実すること	職業訓練の機会を増やすこと	その他	わからない
全体(N=396)	16.2	13.4	11.4	4.3	1.3	3.5
男性(n=142)	20.4	12.7	14.1	7.7	1.4	3.5
女性(n=209)	13.4	13.9	9.6	2.4	1.4	3.8
男性39歳以下(n=26)	7.7	15.4	11.5	7.7	3.8	0.0
男性40歳代(n=22)	18.2	0.0	13.6	0.0	0.0	4.5
男性50歳代(n=35)	22.9	11.4	11.4	14.3	0.0	5.7
男性60歳代(n=23)	26.1	8.7	21.7	8.7	0.0	0.0
男性70歳以上(n=35)	25.7	22.9	11.4	5.7	2.9	5.7
女性39歳以下(n=49)	12.2	24.5	14.3	2.0	4.1	0.0
女性40歳代(n=34)	20.6	5.9	11.8	5.9	2.9	2.9
女性50歳代(n=47)	17.0	10.6	10.6	2.1	0.0	2.1
女性60歳代(n=31)	12.9	6.5	0.0	3.2	0.0	6.5
女性70歳以上(n=47)	6.4	17.0	8.5	0.0	0.0	8.5

4. 日常生活における優先度

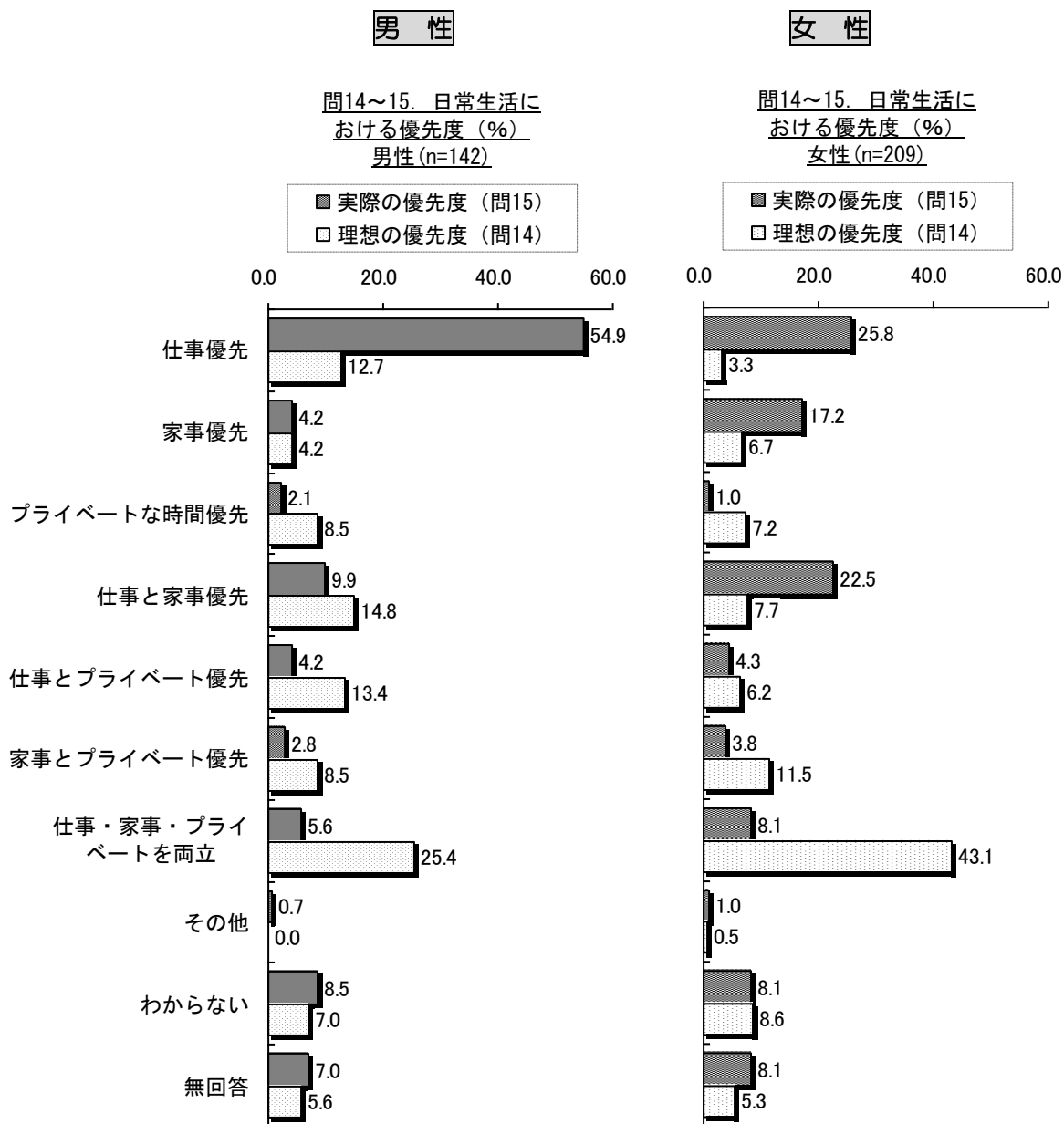
問 14. 日常生活における、仕事・家事（育児含む）・プライベートな時間（趣味など）について、あなたの希望する（理想とする）優先度をお答えください。（○印1つ）

問 15. それでは、実際の（現実の）優先度はどのようになっていますか。（○印1つ）

日常生活における優先度を「実際」と「理想」に分けてみると、全体的な特徴としては「理想」は「仕事・家事・プライベートを両立」(34.6%)であるが、「実際」は「仕事優先」(37.6%)、「仕事と家事優先」(17.9%)となっている。



性別でみると、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が理想で、実際は「仕事優先」が主流となっている。女性の場合、男性に比べ「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が多く、また「仕事と家事優先」「家事優先」が多くなっている。

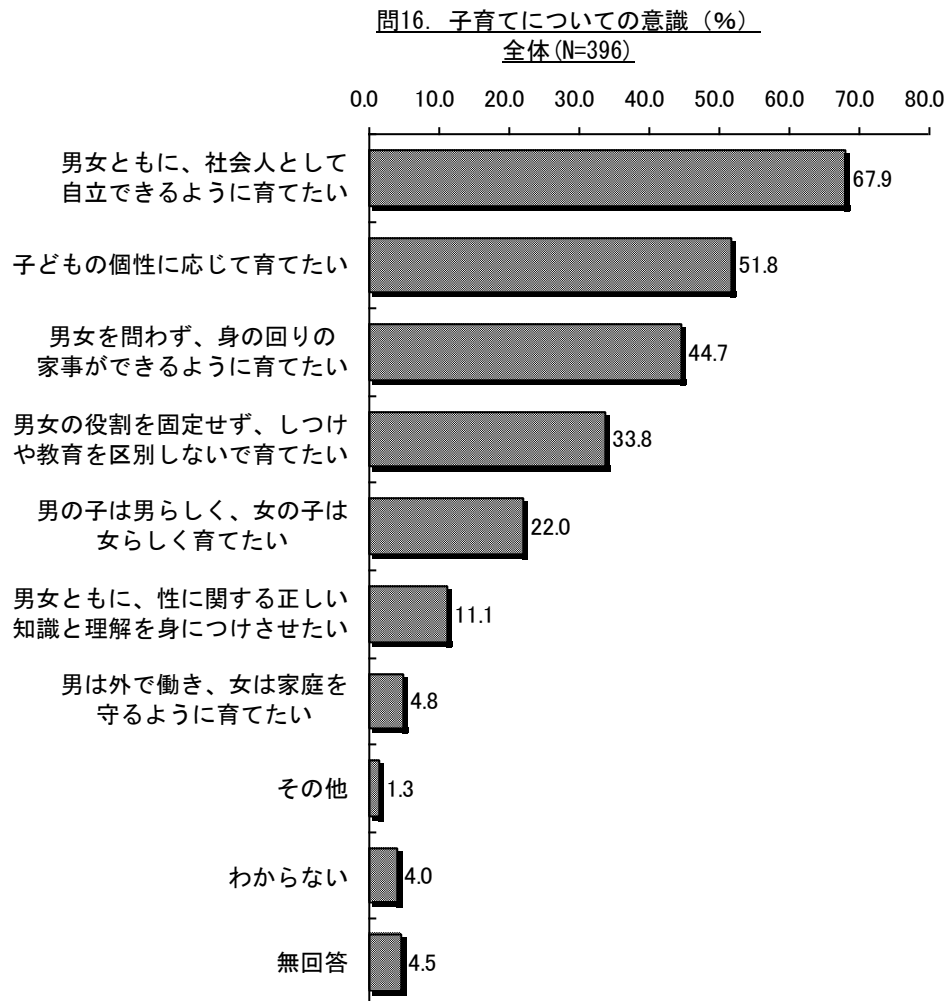


【3】子育てや介護について

1. 子育てについての意識

問 16. あなたは、子育てについて、どのように考えますか。(〇印3つまで)

子育てについての意識をみると、「男女ともに、社会人として自立できるように育てたい」が67.9%と最も多く、次いで「子どもの個性に応じて育てたい」(51.8%)、「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てたい」(44.7%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育を区別しないで育てたい」(33.8%)の順となっている。



性別では大きな差は目立たない。年齢別では男女ともに39歳以下や40歳代の相対的に年齢の若い層で「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てたい」が多い。また、相対的に年齢が上がるにつれ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたい」が多くみられる。

さらに、共働き世帯では非共働き世帯に比べ「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てたい」が多く、非共働き世帯では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたい」が多い。

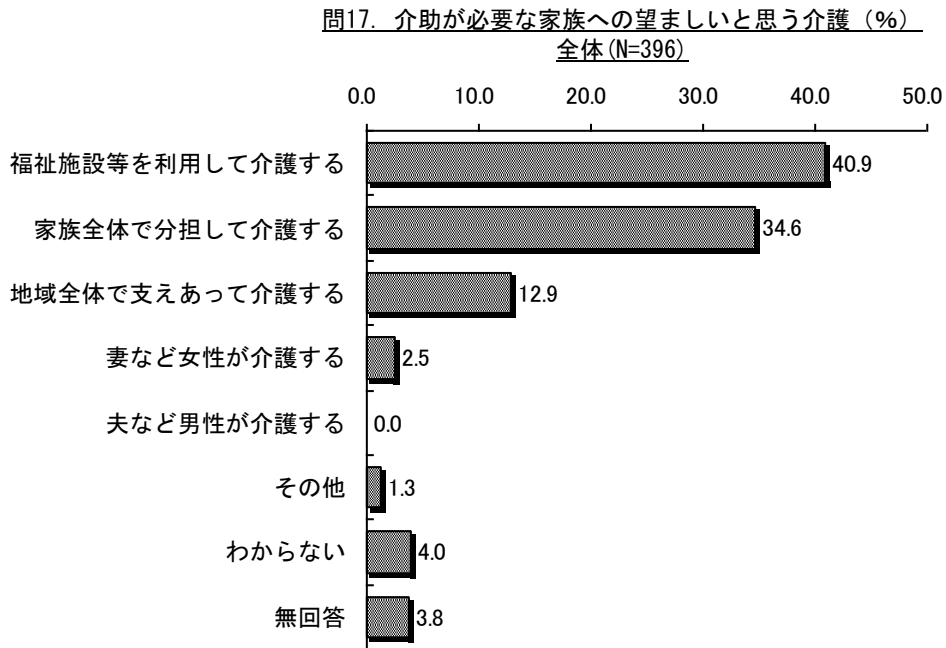
問16. 子育てについての意識(%)

	自立女 立女と できる もに、 よう 社に 会人 とた して	た子 いど もの 個性 に 応 じ て 育 て	い家 事 が で き る よ う に 育 て た の	育つ 女 の 役 割 を 固 定 し な い で し	は男 の 子 は 男 ら し く 育 て た い	さし 女 と も に、 理 解 を 身 に す る 正	守男 は 外 で 働 き、 女 は 家 庭 を	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=396)	67.9	51.8	44.7	33.8	22.0	11.1	4.8	1.3	4.0
男性(n=142)	71.1	50.7	38.7	39.4	26.8	7.7	5.6	0.7	4.2
女性(n=209)	67.5	53.6	46.9	30.6	18.7	13.9	3.8	1.9	3.3
男性39歳以下(n=26)	69.2	61.5	65.4	38.5	15.4	3.8	0.0	0.0	0.0
男性40歳代(n=22)	68.2	63.6	50.0	40.9	9.1	18.2	4.5	0.0	4.5
男性50歳代(n=35)	68.6	42.9	28.6	31.4	22.9	2.9	5.7	0.0	11.4
男性60歳代(n=23)	78.3	60.9	30.4	43.5	21.7	4.3	13.0	4.3	0.0
男性70歳以上(n=35)	71.4	34.3	28.6	42.9	54.3	11.4	5.7	0.0	2.9
女性39歳以下(n=49)	65.3	69.4	51.0	32.7	16.3	14.3	6.1	6.1	0.0
女性40歳代(n=34)	76.5	44.1	64.7	32.4	11.8	8.8	0.0	0.0	5.9
女性50歳代(n=47)	78.7	46.8	48.9	29.8	14.9	17.0	2.1	2.1	2.1
女性60歳代(n=31)	64.5	51.6	38.7	41.9	12.9	16.1	3.2	0.0	3.2
女性70歳以上(n=47)	55.3	51.1	34.0	19.1	34.0	12.8	6.4	0.0	6.4
配偶者有り(n=259)	71.0	56.8	47.1	36.7	19.7	11.6	4.6	0.4	1.9
共働き(n=146)	74.7	56.2	54.1	37.7	14.4	9.6	2.7	0.7	0.7
非共働き(n=102)	66.7	56.9	38.2	37.3	27.5	14.7	7.8	0.0	2.0
配偶者無し(n=131)	63.4	43.5	41.2	27.5	26.7	10.7	5.3	3.1	6.9

2. 介助が必要な家族への望ましいと思う介護

問 17. 介助が必要な家族の介護などは、どのような形をとるのが望ましいとお考えですか。
(○印1つ)

介助が必要な家族への望ましいと思う介護については、「福祉施設等を利用して介護する」が 40.9%と最も多く、次いで「家族全体で分担して介護する」(34.6%)、「地域全体で支えあって介護する」(12.9%)が続くが、このほかの回答は少ない。



性別では男性で「家族全体で分担して介護する」、女性で「福祉施設等を利用して介護する」がそれぞれ多くみられる。年齢別では年齢の若い層ほど「家族全体で分担して介護する」「地域全体で支えあって介護する」、年齢があがるにつれ「福祉施設等を利用して介護する」が多くなっている。

問17. 望ましいと思う介護が必要な家族の介護 (%)

	て福祉施設等を利用して介護する	家族全体で分担して介護する	地域全体で支えあって介護する	妻など女性が介護する	夫など男性が介護する	その他	わからない
全体(N=396)	40.9	34.6	12.9	2.5	0.0	1.3	4.0
男性(n=142)	33.8	45.8	9.9	2.1	0.0	0.7	4.2
女性(n=209)	45.0	27.3	15.8	2.9	0.0	1.9	3.8
39歳以下(n=80)	30.0	45.0	18.8	1.3	0.0	1.3	2.5
40歳代(n=64)	32.8	45.3	10.9	1.6	0.0	1.6	6.3
50歳代(n=87)	44.8	28.7	12.6	2.3	0.0	3.4	5.7
60歳代(n=67)	40.3	34.3	13.4	0.0	0.0	0.0	4.5
70歳以上(n=98)	52.0	24.5	9.2	6.1	0.0	0.0	2.0

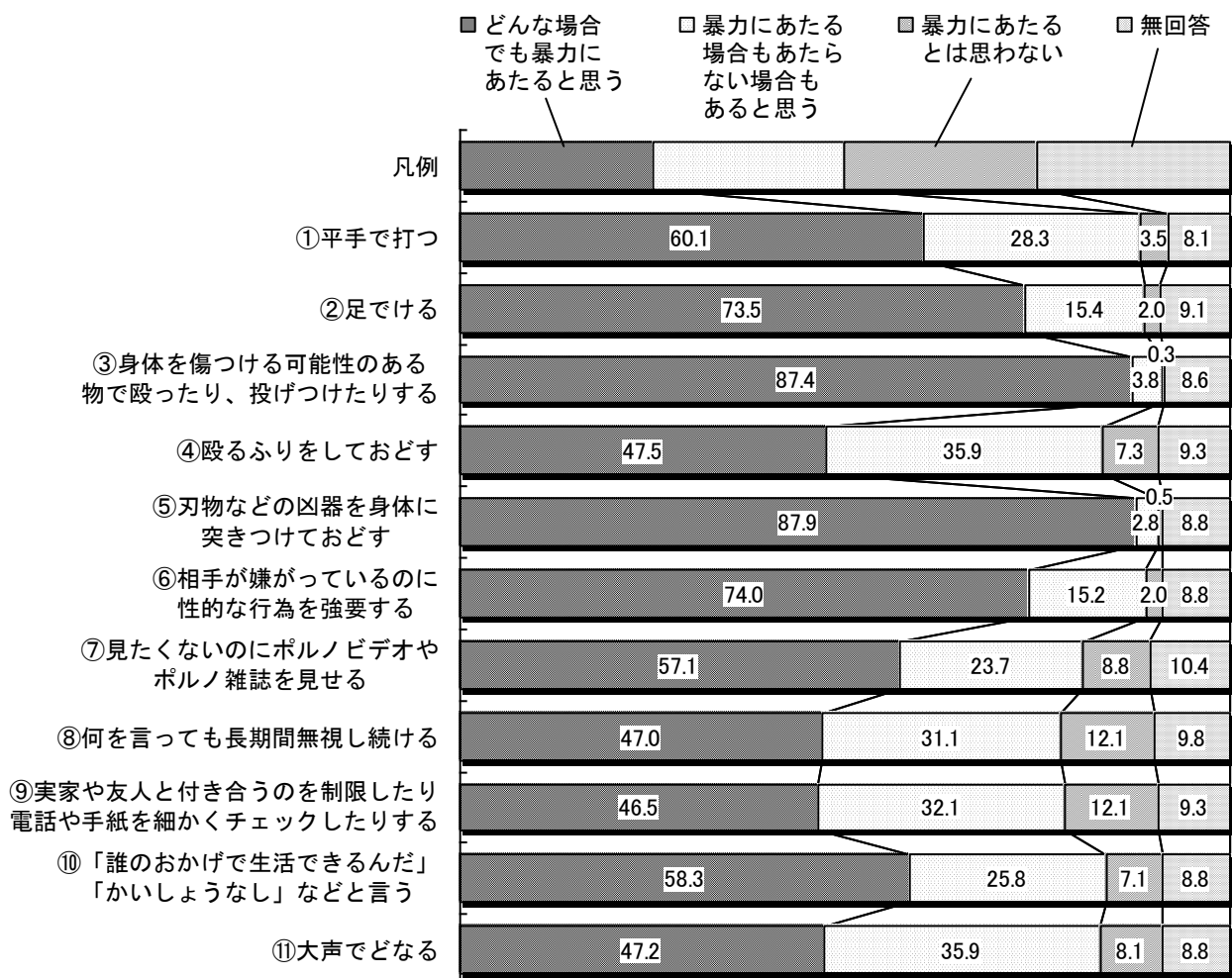
【4】女性の人権について

1. 暴力にあたると思われる行為

問 18. 最近、夫婦間やパートナーの間での身体的・心理的暴力による被害が問題視されています。あなたは、次のようなことが夫婦（事実婚や別居中含む）や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。①～⑪それぞれの項目についてお答えください。（○印1つずつ）

暴力にあたると思われる行為について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」回答をみると、「⑤刃物などの凶器を身体に突きつけておどす」が87.9%と最も多く、ほぼ近い割合で「③身体を傷つける可能性のある物で殴ったり、投げつけたりする」（87.4%）が続き、以下「⑥相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」（74.0%）、「②足でける」（73.5%）、「①平手で打つ」（60.1%）、「⑩『誰のおかげで生活できるんだ』『かいしょうなし』などと言う」（58.3%）の順となっている。

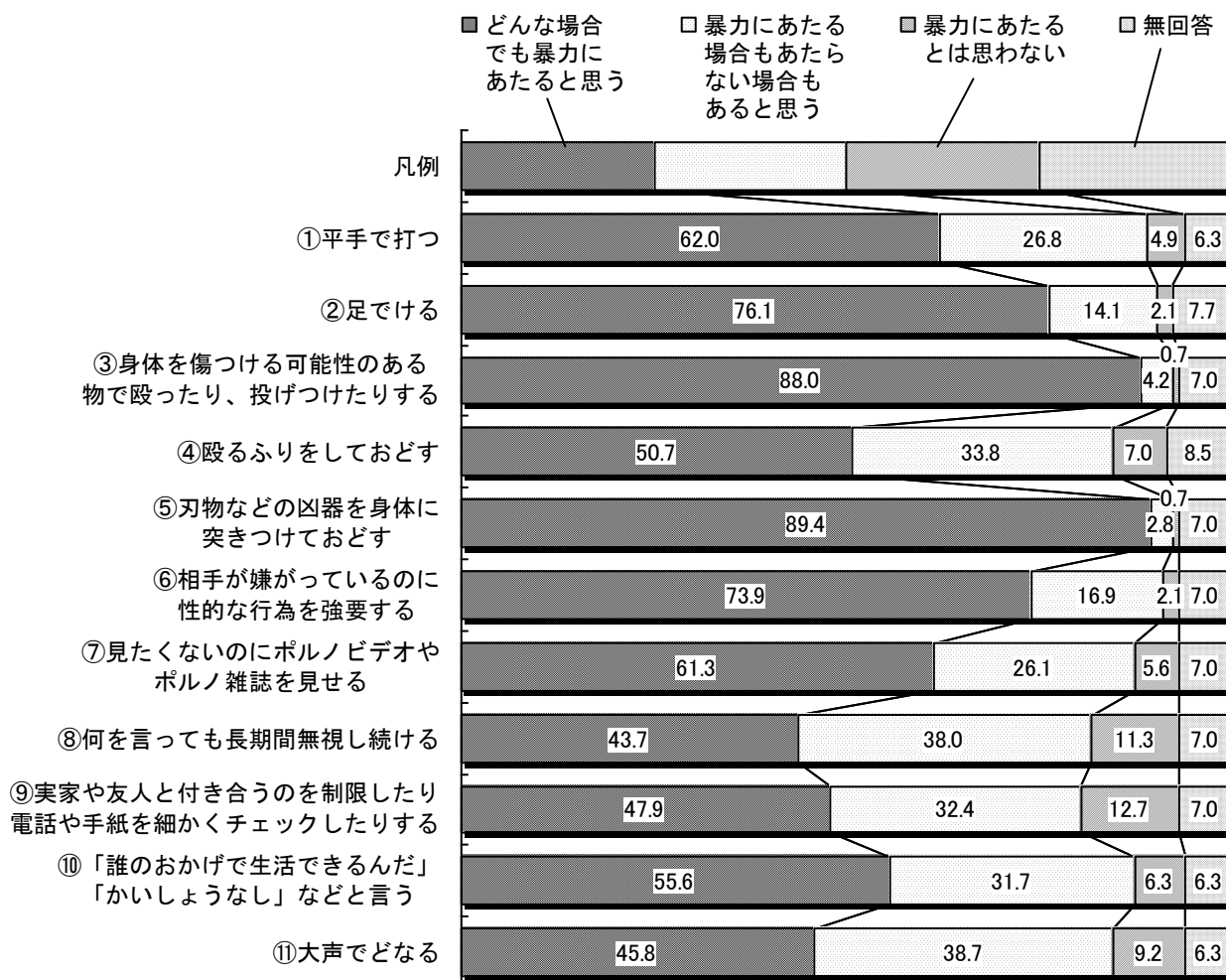
問18. 暴力にあたると思われる行為（%）
全体 (N=396)



「どんな場合でも暴力にあたると思う」回答について、性別では大きな傾向差は目立たないが、男性は女性に比べ「⑦見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」、女性は「⑩「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言う」「⑧何を言っても長期間無視し続ける」でやや差がみられる。

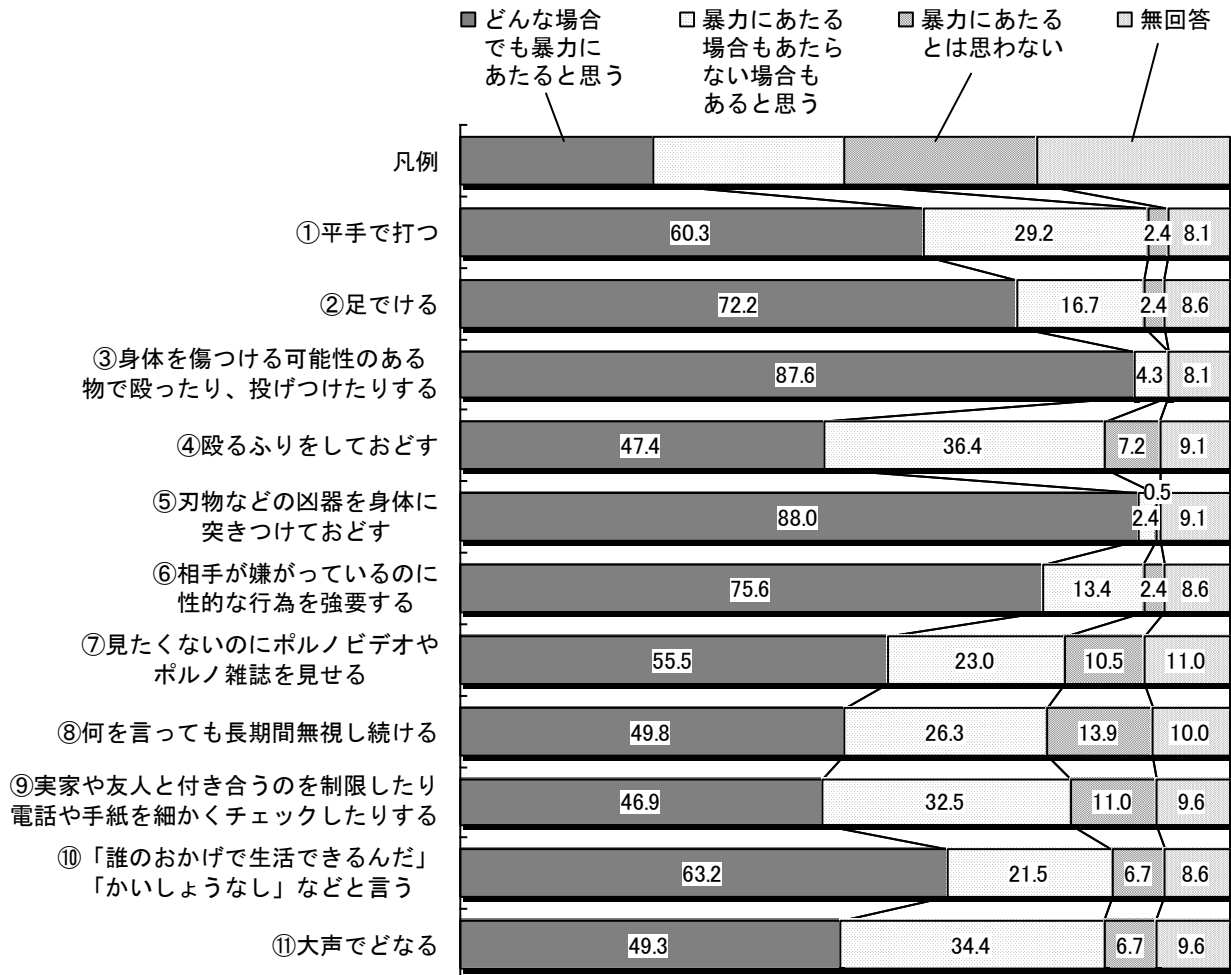
男性

問18. 暴力にあたると思われる行為 (%)
男性 (n=142)



女性

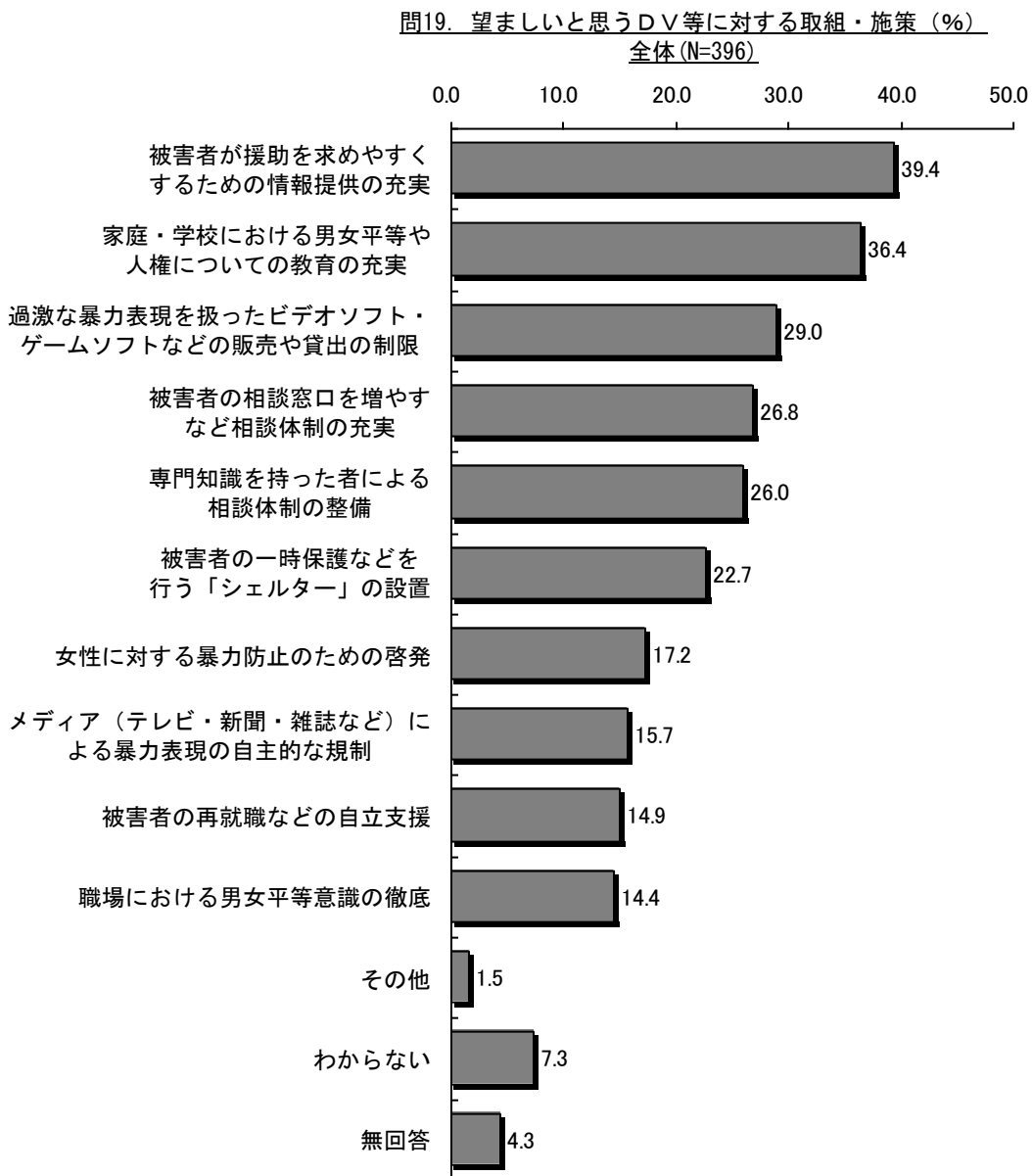
問18. 暴力にあたると思われる行為 (%)
女性 (n=209)



2. 望ましいと思うDV等に対する取組・施策

問 19. DV、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為、売買春、性犯罪など女性に対する暴力防止、被害者支援への取組として、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

望ましいと思うDV等に対する取組・施策については、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実」が 39.4%と最も多く、ほぼ並んで「家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実」(36.4%)、次いで「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト・ゲームソフトなどの販売や貸出の制限」(29.0%)、「被害者の相談窓口を増やすなど相談体制の充実」(26.8%)、「専門知識を持った者による相談体制の整備」(26.0%)の順となっている。



性別では男性で「職場における男女平等意識の徹底」、女性で「被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置」、「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト・ゲームソフトなどの販売や貸出の制限」などで差が目立っている。

年齢別では、男性 39 歳以下、及び 70 歳以上で「家庭・学校における男女平等や人権についての教育の充実」、男性 50 歳代で「被害者が援助を求めやすくするための情報提供の充実」、女性 50 歳代で「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト・ゲームソフトなどの販売や貸出の制限」などがそれぞれ他の年齢層を上回って多くなっている。

問19. 望ましいと思うDV等に対する取組・施策(%)

	被害者 の援助 を求め やすく する	家庭・学 校にお ける教 育の充 実	過激な 暴力表 現を扱 ったビ デオソ フト	被害者 の相談 窓口を 増やす	専門知 識を持 つた者 による 相談体 制の整 備	被害者 の一時 保護な どを行 う「セ ルター 」の設 置	女性に 対する 暴力防 止のた め	雑誌な どによ る暴力 表現・ メデイ ア（テ レビ・ 新聞・ 自主的 な規制	被害者 の再就 職など の自立 支援	職場に おける 男女平 等意識 の徹底
全体(N=396)	39.4	36.4	29.0	26.8	26.0	22.7	17.2	15.7	14.9	14.4
男性(n=142)	38.7	40.1	23.2	25.4	26.8	14.8	19.7	15.5	16.2	21.8
女性(n=209)	40.2	33.5	34.0	27.8	27.3	27.8	13.4	17.2	14.8	9.6
男性39歳以下(n=26)	26.9	57.7	38.5	19.2	19.2	11.5	19.2	19.2	23.1	26.9
男性40歳代(n=22)	50.0	9.1	18.2	36.4	40.9	31.8	22.7	22.7	4.5	13.6
男性50歳代(n=35)	54.3	25.7	20.0	22.9	22.9	14.3	17.1	11.4	14.3	20.0
男性60歳代(n=23)	43.5	43.5	21.7	21.7	26.1	13.0	26.1	21.7	21.7	17.4
男性70歳以上(n=35)	22.9	57.1	20.0	28.6	25.7	5.7	17.1	8.6	17.1	28.6
女性39歳以下(n=49)	38.8	20.4	30.6	28.6	28.6	36.7	16.3	28.6	18.4	16.3
女性40歳代(n=34)	44.1	38.2	35.3	20.6	20.6	32.4	8.8	11.8	14.7	11.8
女性50歳代(n=47)	44.7	31.9	46.8	29.8	31.9	34.0	6.4	25.5	10.6	8.5
女性60歳代(n=31)	41.9	32.3	25.8	22.6	19.4	22.6	16.1	12.9	19.4	3.2
女性70歳以上(n=47)	34.0	46.8	29.8	34.0	29.8	12.8	17.0	4.3	10.6	6.4

	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=396)	1.5	7.3
男性(n=142)	1.4	7.0
女性(n=209)	1.9	7.2
男性39歳以下(n=26)	7.7	0.0
男性40歳代(n=22)	0.0	9.1
男性50歳代(n=35)	0.0	14.3
男性60歳代(n=23)	0.0	0.0
男性70歳以上(n=35)	0.0	8.6
女性39歳以下(n=49)	0.0	6.1
女性40歳代(n=34)	5.9	8.8
女性50歳代(n=47)	4.3	4.3
女性60歳代(n=31)	0.0	6.5
女性70歳以上(n=47)	0.0	10.6

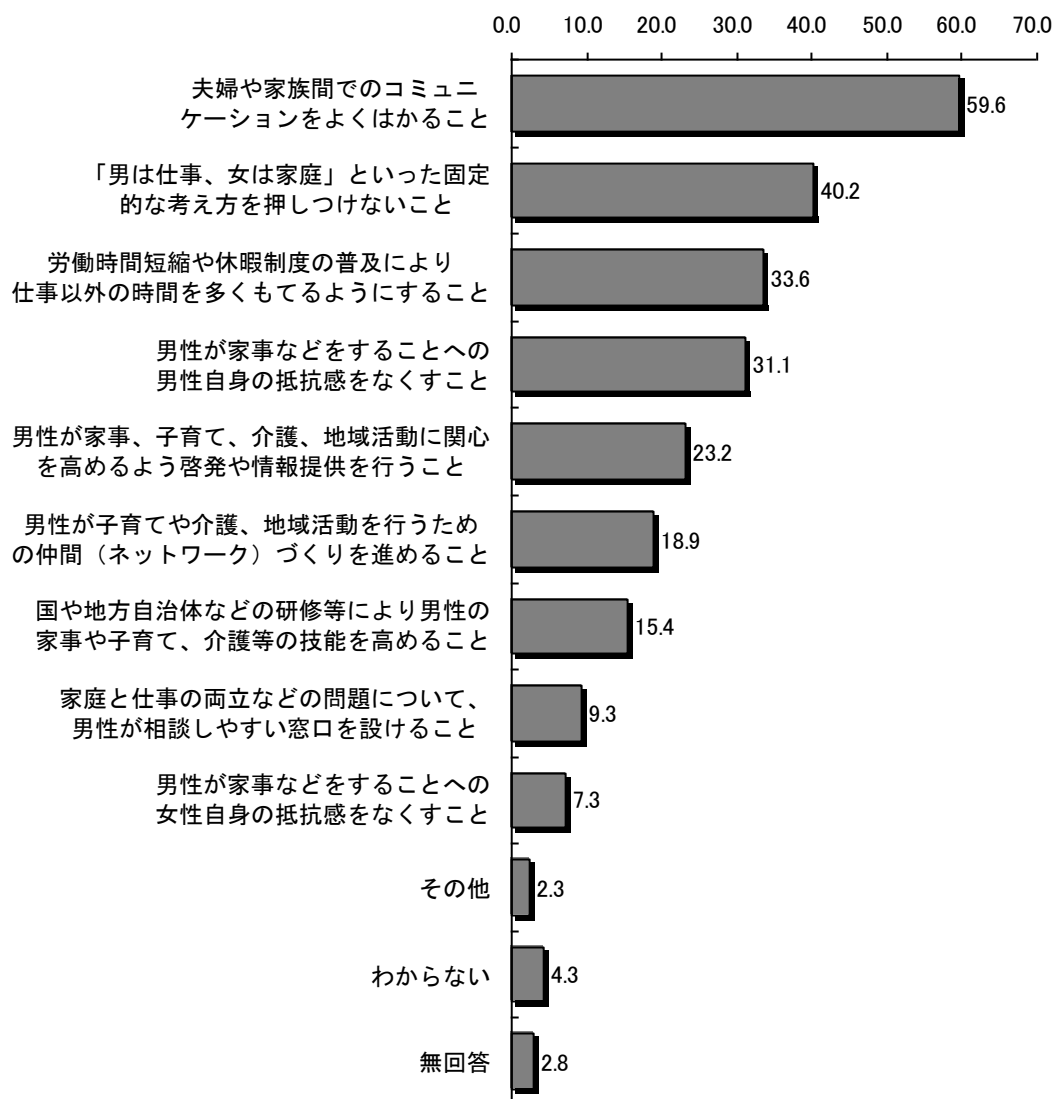
【5】男女共同参画社会の形成について

1. 男女がともに家事や地域活動するために必要と思うこと

問 20. 男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

男女がともに家事や地域活動するために必要と思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 59.6%と6割近くで最も多く、次いで「男は仕事、女は家庭」といった固定的な考え方を押しつけないこと(40.2%)、「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること」(33.6%)、「男性が家事などをする事への男性自身の抵抗感をなくすこと」(31.1%)の順となっている。

問20. 男女がともに家事や地域活動するために必要と思うこと (%)
全体 (N=396)



性別では女性で「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」が、男性を上回っている。

年齢別では男性 39 歳以下、女性 50 歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、男女ともに 40 歳代で「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること」などがそれぞれ他の年齢層を上回って多くなっている。

問20. 男女がともに家事や地域活動するために必要と思うこと(%)

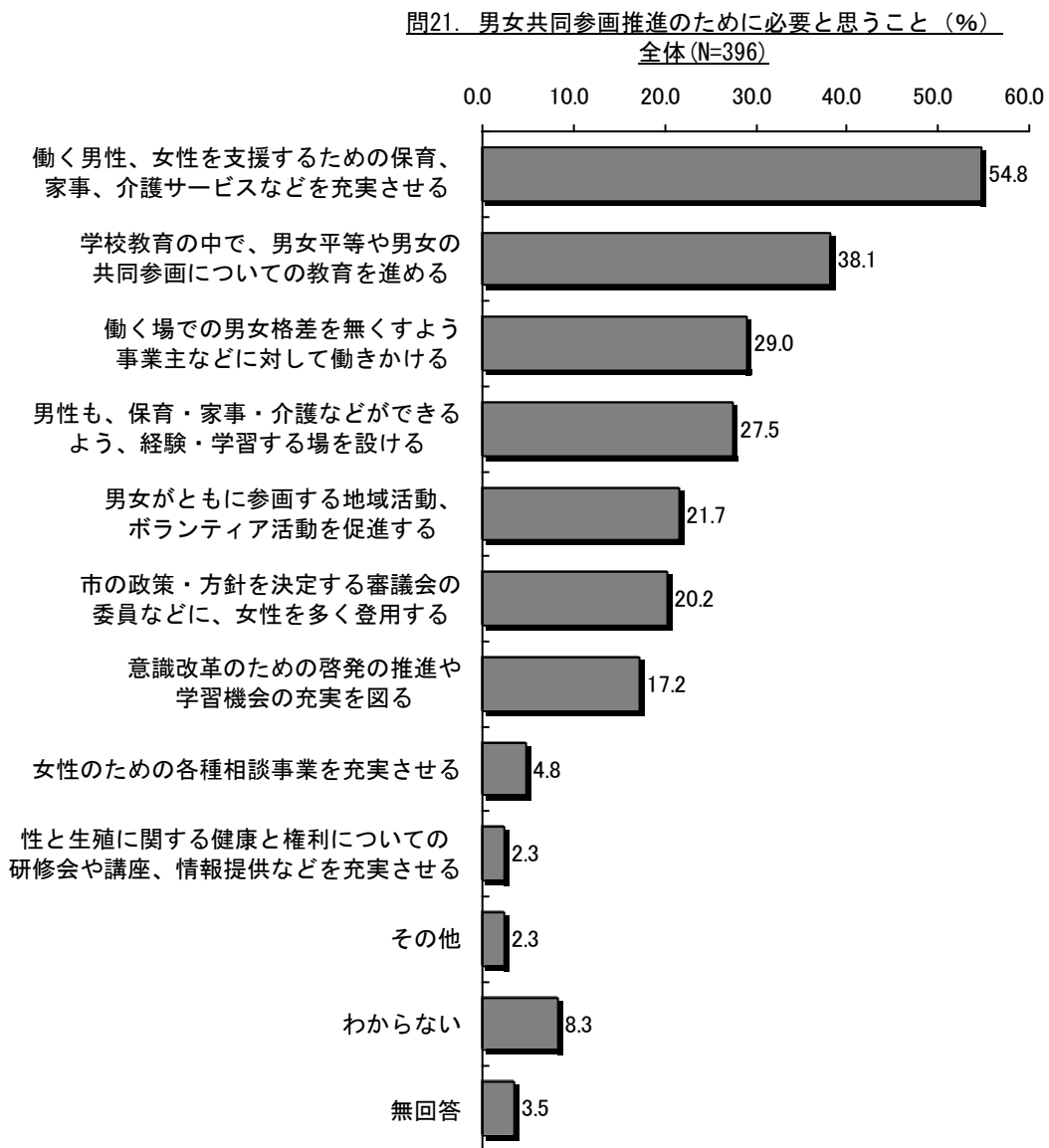
	とケ夫 ー婦 シや ヨ ン を よ く は か る こ と	しい っ つ つ 男 は 固 定 的 な 考 え 方 を 押	とを普 多及 くに もよ り短 縮や 休 暇 の 制 度 の	くへ男 すの性 こと男 と性が 家事 自身 などを 抵抗 感す ること	うる護 こよ性 とが 啓地 発域 や活 や動 に子 情育 報て 提を 供高 をめ 行	進へ活 める動 こと行 トウ ワー ク の 仲 間 を	こて等 と、に 介よ 護り 等男 の性 技自 能治 を高体 め家 る事 育や 修	や題家 すに庭 いっ 窓と 口仕 を事 設の け男 る性 こと 相 談 し	くへ男 すの性 こと女 と性 家事 自身 などを 抵抗 感す ること
全体(N=396)	59.6	40.2	33.6	31.1	23.2	18.9	15.4	9.3	7.3
男性(n=142)	61.3	45.1	34.5	26.1	14.8	20.4	15.5	12.0	4.9
女性(n=209)	58.4	37.8	34.0	34.4	26.8	17.2	13.9	9.1	10.0
男性39歳以下(n=26)	73.1	38.5	38.5	23.1	11.5	26.9	19.2	7.7	3.8
男性40歳代(n=22)	59.1	31.8	54.5	31.8	4.5	31.8	13.6	9.1	9.1
男性50歳代(n=35)	48.6	45.7	42.9	17.1	5.7	14.3	17.1	8.6	5.7
男性60歳代(n=23)	56.5	56.5	39.1	26.1	30.4	8.7	8.7	13.0	4.3
男性70歳以上(n=35)	68.6	48.6	5.7	34.3	22.9	22.9	17.1	20.0	2.9
女性39歳以下(n=49)	57.1	34.7	40.8	38.8	32.7	24.5	10.2	6.1	4.1
女性40歳代(n=34)	47.1	47.1	44.1	38.2	32.4	8.8	2.9	5.9	14.7
女性50歳代(n=47)	70.2	36.2	38.3	27.7	19.1	14.9	12.8	8.5	10.6
女性60歳代(n=31)	64.5	38.7	29.0	25.8	32.3	25.8	29.0	19.4	3.2
女性70歳以上(n=47)	51.1	36.2	19.1	38.3	19.1	12.8	17.0	8.5	17.0

	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=396)	2.3	4.3
男性(n=142)	2.8	4.2
女性(n=209)	2.4	4.3
男性39歳以下(n=26)	3.8	0.0
男性40歳代(n=22)	9.1	4.5
男性50歳代(n=35)	0.0	11.4
男性60歳代(n=23)	4.3	0.0
男性70歳以上(n=35)	0.0	2.9
女性39歳以下(n=49)	4.1	0.0
女性40歳代(n=34)	5.9	2.9
女性50歳代(n=47)	0.0	2.1
女性60歳代(n=31)	0.0	3.2
女性70歳以上(n=47)	2.1	12.8

2. 男女共同参画推進のために必要と思うこと

問 21. 男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○印3つまで)

男女共同参画推進のために必要と思うことについては、「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」が 54.8%と半数を超え最も多く、次いで「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める」(38.1%)、「働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける」(29.0%)、「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」(27.5%)、「男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する」(21.7%)の順となっている。



性別では男性で「男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する」、女性で「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」などで差がやや大きい。

年齢別では、男性の年齢が若い層ほど、及び女性の50歳代で「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」、男性40歳代で「市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する」、男性60歳代で「意識改革のための啓発の推進や学習機会の充実を図る」などがそれぞれ他の年齢層を上回って多くなっている。

問21. 男女共同参画推進のために必要と思うこと(%)

	スめ働 などの 保育、 男性、 女性、 家事、 介護サ ービス を充 実させ る	育男学 を女校 を進の 進め共 育の中 で、 男女 子の 平等 を教 育す る	かよ働 けうく る事場 業での 主男女 など格 差を 無く す	すど男 るが性 も、 保 育・ 家 事・ 介 護 な い	す動男 る女 がと もに 参 画 す る地 域活 動を 促 進	く議市 登会の 用の する委員 など に、 女 性 を 多 く	や意 学識 習改 機革 会の 充た 実め をの 啓 発 の 推 進	充女 実性の させため の各 種相 談事 業を	報に性 提つと 供いて な生 な殖 をの 充研 実修 させ会 や講 座と 情 利	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=396)	54.8	38.1	29.0	27.5	21.7	20.2	17.2	4.8	2.3	2.3	8.3
男性(n=142)	52.1	40.1	33.8	21.8	28.9	19.7	22.5	3.5	2.8	4.2	7.0
女性(n=209)	59.8	36.8	25.4	31.1	14.8	21.5	13.9	5.3	1.9	1.4	9.6
男性39歳以下(n=26)	61.5	42.3	23.1	26.9	30.8	15.4	15.4	7.7	7.7	3.8	3.8
男性40歳代(n=22)	63.6	36.4	40.9	13.6	13.6	36.4	9.1	0.0	0.0	4.5	13.6
男性50歳代(n=35)	51.4	40.0	34.3	28.6	22.9	5.7	22.9	5.7	0.0	2.9	8.6
男性60歳代(n=23)	52.2	34.8	21.7	26.1	30.4	30.4	39.1	0.0	0.0	4.3	0.0
男性70歳以上(n=35)	37.1	42.9	42.9	14.3	42.9	20.0	25.7	2.9	5.7	5.7	8.6
女性39歳以下(n=49)	63.3	34.7	22.4	30.6	6.1	20.4	10.2	6.1	4.1	2.0	6.1
女性40歳代(n=34)	61.8	35.3	35.3	17.6	11.8	20.6	8.8	2.9	0.0	2.9	14.7
女性50歳代(n=47)	76.6	40.4	29.8	29.8	10.6	23.4	14.9	4.3	2.1	2.1	2.1
女性60歳代(n=31)	61.3	29.0	22.6	32.3	29.0	29.0	29.0	0.0	0.0	0.0	12.9
女性70歳以上(n=47)	36.2	40.4	19.1	42.6	21.3	17.0	10.6	10.6	2.1	0.0	14.9